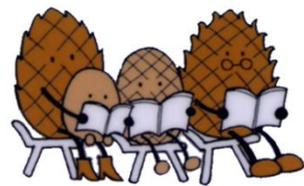


にほんごひろば



第6回 ふるさとを語ろう！

ボランティアと学習者の交流を促進するため、本企画を立ち上げました。
本講座の内容は、ご当地の ①人口、面積、気候 ②観光名所
③グルメ ④魅力です。

開催概要

日時 2025年12月20日（土曜）

11:30~12:00

場所 中央図書館4階 多目的ホール

ゲスト 程 蕾さん（中国 山西省太原市）

趙淑寧さん（中国 広東省潮汕）

参加者 26名

司会 にほんごひろば 古沢



レジュメを読む参加者の皆さん



司会者の説明を聞く参加者の皆さん

参加者の声

■中国は広い国なので、中国人の私でも知らない都市がたくさんあります。「ふるさとを語ろう！」を通して、知っている都市が増えて、とてもうれしかったです。

■日本語のレベルにかかわらず、発表者の皆さんが自分の故郷を大切に思い、宣伝したいという強い気持ちに心から感動しました。

■現地出身者の生の声に触れることで当地の歴史への関心も深まり、具体的な背景を知ることができ、興味を引くイベントであったと考えます。

わたしのふるさと

「中国 山西省太原市」 程 蕾さん



山西省の地図
[Wikipedia](#) 日本語版より

プロフィール

2018 年来日

2025 年入会

趣味

人物伝記を読むこと

アウトドアスポーツ



わたしのふるさと

太原市は中国の山西省の中央に位置し、山西省の省都です。総面積は約 6988 km²で、人口は約 550 万人です。太原は温帯大陸性気候に属し、四季がはっきりしています。春は乾燥して風が強く、夏は暑くて雨が多く、秋は涼しくて快適で、冬は寒く乾燥しています。

当市は 2500 年以上の歴史を持つ古都で、「竜城」とも呼ばれています。竜城という名称は太原の自然の姿と歴史の栄光を表しているのです。

太原には有名な観光地がたくさんあります。たとえば、「晋祠」(しんし) は古代建築と芸術的な美しさが相まって感じられる代表的な名所です。

また、太原で一番有名な料理は、「刀削麺」(とうしょうめん) です。そのほかにも、過油肉(グオヨウロウ)、平遥牛肉(ピンヤオニユウロウ)、剔尖面(ティジエンミエン) など、山西省ならでの料理が楽しめます。太原の魅力は、なんといってもその長い歴史と人々の心の温かさにあります。

皆さん、ぜひ太原に遊びに来てください。



剔尖面



平遥牛肉

画像は程さん提供



作文を発表する程さん (右手前)

わたしのふるさと

「中国 広東省潮汕」 趙 淑寧さん



広東省の地図
Wikipedia 日本語版より

プロフィール

2019年10月来日、2025年7月入会。
中日交流推進と潮汕地方をより多くの日本人に知ってもらうため一般社団法人「日本潮汕総商会」を設立。
日本語能力試験N1合格を目指して勉強中。



《潮汕:「東洋のユダヤ人」と称される人々の故郷》

潮汕は中国広東省東部にあり、汕頭・潮州・揭陽・汕尾の4市で構成され、人口は2000万人を超えます。汕頭は中国初期の経済特区の一つで、年間平均気温21℃の温暖な地域です。潮汕語は閩南語系に属し、八声を持ち、「漢語の活化石」と呼ばれます。潮汕人は家庭を重んじ、離婚率は全国最低水準。伝統舞踊の英歌舞は「中国第一の舞」と称されています。

世界の華僑6000万人のうち約3分の1(約2000万人)が潮汕出身で、華人大富豪李嘉誠、タイ大富豪謝国民など、東南アジアでは富豪の半数以上が潮汕人であり、「東洋のユダヤ人」と呼ばれます。汕頭澄海は「世界玩具の都」、潮州陶磁器は中国四大陶磁器の一つ、潮南は下着や電子基板の中国最大級生産地です。「食は広州、味は潮汕」と言われ、牛肉火鍋、砂鍋粥、牡蠣オムレツなどが有名です。潮州は2023年にUNESCO 創意都市ネットワークによって「世界美食の都」に選ばれました。潮州料理は日本でも高く評価され、東京のミシュラン三つ星「茶禅華」が代表例です。観光では汕頭小公園開埠区、「粵東の真珠」の南澳島、潮州古城、広濟橋などが人気です。私達は「日本潮汕総商会」(<https://chamber.teochew.jp>)を設立し、日中の経済・文化交流を促進しています。皆さん、日本から香港経由で約6時間、魅力溢れる潮汕へぜひ遊びに来てください。



汕頭小公園開埠区



英歌舞



紅頭船

画像は趙さん提供



発表する趙さん(左奥)と熱心に聞く参加者の皆さん

発表者の声

今回の講座では、限られた時間と文字数の中で、潮汕の地理・文化・食・観光といった多様な魅力を簡潔に整理し、全体像を分かりやすく伝えることができました。各要素を要点ごとに紹介することで、初めて潮汕に触れる参加者にも関心を持ってもらえた点は大きな成果だと感じています。(趙 淑寧)